

平成31年 №67
春ひがん号

あきばさん

発行人／発行所
秋葉山 新井 寺
272-0144
千葉県市川市新井
1丁目9の1
電話047-357-8319
FAX 047-357-8399
mail: info@shinseiji.jp
http://www.shinseiji.jp
郵便振替00150-2-282968

生死の世界 『修証義』

しゅうしょうぎ

当山住持



曹洞宗 両大本山ハワイ別院 正法寺様 ご本堂

明治・大正・昭和・平成と継承されてきた「平成」最後の春彼岸会の訪れです。平成の三十一年間をふり返ると、よきに悪しきに様々なニュースがありました。最近では、「児童虐待」という傷ましい事件が話題となり、日本中が悲しみと怒りに充ちています。これは、昔から「子は宝」と言われた大切な子育ての問題です。かわいい我が子のためには、親は自らの身命も惜しまず、慈愛の心で、念いをこめて子育てに励んできました。ところが、昨年从今年にかけて東京都・千葉県で発生し、明るみになった事件は、両親が自らの子どもに対して行なった暴力・虐待により、死にまでいたらしめた血もない涙もない、非人道的な行爲でした。抵抗できない無力の幼児に、食事も与えない、学校にも行かせない、自由を奪った身心への暴力と虐待は、この上もない恐怖感の連続であり、究極的には、もつとも大切な「命」までも奪ってしまつた断じて赦されない行動でした。亡く

なられた子どもたちには、ほかの子どもたちと同じように、これから先、たくさんの夢と希望に満ちた人生が体験できたいと思います。悔やんでも悔やみきれず、心よりご冥福をご祈念申し上げます。そして、自分自身の人生や日常生活にあつても、周囲や世の中で日々くり返される諸問題や事件を他人ごとと思わず、「他人のふり見て我が身を正す」という格言のごとく、我が人生勉強に活かしていくことが肝要かと存じます。とくに、もつとも大切な「命」については、重要な問題として向き合つていかなばなりません。

わたしたちの曹洞宗の独自經典『修証義』の冒頭では、「生を明め 死を明むるは 仏家一大事の因縁なり」と、生死の大切さを平和へのお導きとして有難く説いています。『修証義』は、わかりやすく説かれ、世界平和に向かつて広く親しまれているまさに「平和經典」です。仏教や禅の世界が現実の日常生活に適應し、活かされるように教示されています。「暑さ寒さも彼岸まで」の春彼岸にあたり、ご先祖様のご供養とご自身の心の修養に、『修証義』に親しまれ、生死の世界を勉強されてはいかがでしょうか。何かにつけて、思うにままならない世界、人生です。どうぞ、正しくご精進を。

アロハの島へ

「梅花のこころ」は万国共通です

副住職が梅花流詠歌講習のご縁をいただき、二月十四日から二十四日まで、ハワイへ行ってまいりました。ハワイでの十日間をふり返り、貴重な経験のひとつコマをお伝えしたいと思います。

● ホノルルへ

二月十四日の夜十時、成田空港を出発し、オアフ島 ホノルルへ。往きの飛行時間は約六時間半、時差は十九時間です。ホノルルに到着したのは、ハワイ時間 十四日の朝 九時半ころでした。ハワイにおける曹洞宗の布教活動がはじまったのは、一九〇三年といわれます。現在は、五つの島に、九ヶ寺の曹洞宗寺院があります。到着後まず、その九ヶ寺を総括する「国際布教総監部」がおかれている「曹洞宗両大本山ハワイ別院正法寺様」をお参りし、総監老師にごあいさついたしました。

インド様式のたたずまいのご本堂に入ると、日本のお寺のようにご本尊様がまつりされ、教会のようなベンチ式の参拝席があり、なんともすてきな雰囲気でした。

総監老師は日本の方です。ハワイの日系移民や曹洞宗布教・寺院の歴史、暮らし・文化・寺院の活動や檀信徒との関係など、多岐にわたるご教示をいただきました。お寺では、法要や礼拝行持のほか、日本文化（和太鼓・「ボンダンス（盆踊り）・お琴など）、仏教や禅に親しむさまざまなワークショップがつねに行なわれ、「メンバー」さんといわれる檀信徒がどつてくるとのこと。また、ご臨終間際の檀信徒のもとへ駆けつけ、「看取り」もされるとうかがいました。

● BAIKA WORK SHOP

梅花流詠歌講習は、「梅花ワークショップ」と呼ぶそうです。オアフ島のホノルルとワイパフ、ハワイ島のヒロ、コナのお寺で行なわれました。

メンバーさんには、九十歳を超えたご高齢の方も多いことに驚きました。ハリ

のあるお声でのお唱えや昔のハワイ梅花流についてなど、貴重なお話をうかがうこともできました。

メンバーさんの大半は日系の方ですが、日本語の浸透率はそれぞれです。ときには慣れない英単語と片言の英語を用いながらのワークショップでは、じつにさまざまな学びと気づきをいただきました。

● ハワイ島コナ 大福寺様

講習は、ホノルルから飛行機で約一時間のハワイ島コナからはじまりました。

大福寺様は、そばにいるだけで安心としあわせをいただける尼僧さんがご住職でした。ご住職の娘さんが副住職として、以心伝心にサポートされている姿が印象的でした。お寺に泊めていただき、家族のように接していただきました。

一九五三年（昭和二十八）六月に、高階禅師様がハワイをご巡錫された際、大福寺様でも法要が行なわれたとのこと。ご本堂や納骨堂には、高階禅師様のお写真やご染筆の法語も掛けられました。

ワークショップは、カーペット敷きの「観音堂」で椅子と机を使って行なわれました。一日目（午後半日）は、初心者（ビギナーズ）。『三宝御和讃』と法具の扱い・お作法を勉強しました。夕方には検定会も行なわれ、三名の方が受検されました。

翌日は、オールメンバーが参加。『三宝御和讃』の思い出をお話しし、『釈尊花祭第一番御詠歌（歡喜）』（お釈迦さま御誕生の



ヒロ大正寺様の「梅花観音」
お供えのお花もハワイアンスタイルです



ヒロ 大正寺様での梅花ワークショップ
立行での開講式の様子(於、ご本堂)

曲)、さらには、立行(りつぎょう)(立つてでのお唱え)も勉強しました。正午で終了となり、みなさんと昼食をいただきました。

大福寺様では、三仏忌(さんぶつ忌)などの法要やメンバーさんのご葬儀のときに、みなさんと詠讚歌をお唱えされているとのこと。さらに、ハワイ梅花流初期のころからの講師様がいらつしやり、はじめの巡回講習のことや梅花流を伝えていくために必死のおもいで勉強してこられたお話をうかがいました。

● ハワイ島ヒロ 大正寺様(たいしゅうじ)

ヒロまでは、大福寺様から車で約三時間。車窓からのコーヒー畑や海の美しい景色が心に残っています。

大正寺様では、赴任されて四年目の親切で紳士なご住職と親しみ深いご寺族が、あたたかく迎えてくださいました。

ハワイで生きるみなさんの心に届く布教を行なうためには、より多くの方とかわり、そのコミュニティに溶け込んでいくことが課題と語られるお気持ちを着実に実践されているお若いおふたりのご様子に、海外布教の深さを学びました。ご本堂での開講式では、日本語と英語での『お誓い』に新鮮な感銘を受けました。

半日のワークショップでは、お釈迦さま御誕生の『釈尊花祭御和讃』、大正寺御詠歌、『聖号』を勉強しました。大正寺様では、「立行」でのお唱えが日常スタイとのことで、立行作法も。

『大正寺御詠歌』は、『観世音菩薩第二番御詠歌(浄光)』のメロディーに、大正寺様オリジナルの歌詞でお唱えする曲です。この曲では、ヒロの地で梅花布教に尽力された「青木先生」という大正寺様のご住職や、メンバーさんの大正寺様へのおもいに触れることができました。「おもい」を念じてお唱えするというこの大切さを改めて学ばせていただきました。そして、ウクレレ演奏で日本語と英語の『まごころに生きる』も聴かせていただきました。昼食後には、検定会が行なわれ、五名が受検されました。さらに、その晩に行なわれた坐禅会にも参加させていただきました。貴重な思い出になりました。

● オアフ島 大陽寺様 / 正法寺様(しやうぼうじ)

大陽寺様と正法寺様の二ヶ寺で、二日間におたつて行なわれ、大陽寺様や正法寺様だけでなく、オアフ島のあらゆるお寺のメンバーさん十八名が参加。龍仙寺様というお寺のご住職とご寺族も参加くださいました。

このワークショップでも、検定会が予定され、作法と検定会の曲目を中心に勉強しました。

最後に、昨秋に亡くなられた総監老師の奥様のために『追善供養御和讃』を全員でお唱えしました。ハワイ滞在中、総監老師の奥様への深いおもいを多くの方からお聞きし、わたし自身はお目にかかることはできませんでしたが、募らせた敬慕の念をお届けしたいと思ったのです。

● オアフ島 正法寺様

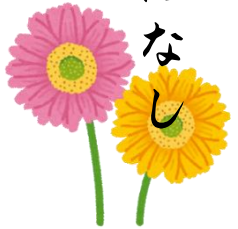
最後は、日ごろご指導にあたつている師範(ご住職)・詠範(ご寺族)の講習会。ハワイ滞在中にお世話になったお寺のみなさんが参加くださいました。

ハワイでのワークショップの中で、わたし自身が感じたことをお伝えし、詠唱の基本的な留意点を確認しました。

高階禅師様の「歌声に仏まします梅花流」のお歌をご紹介します。つねにメンバーさんやそのお唱えに「寄り添う」ことができる指導者でありたいというおもいと深い感謝の気持ちをお伝えし、閉講となりました。

おはなのおはなし

ガーベラ



四月十八日は、「ガーベラの日」です。その由来は、今から約六十年前前の四月十八日、日本で初めて品種改良したガーベラ（八重咲き品種）が誕生したことにあります。

一八七八年、南アフリカで発見された野生のタンポポのような花は、主にヨーロッパで品種改良が行なわれ、発見者（ドイツの植物学者：ガーバー）の名前にちなんで「ガーベラ」と名付けられました。日本には一九一〇年（明治四十三年）、一重咲きのガーベラがやってきたといわれており、日本ではその花を「花車はなぐるま」と呼んでいたそうです。



白：ポンポン咲き「スターゲート」
オレンジ：一重「ラコパ」

四月に出荷の最盛期を迎えるガーベラの主な産地は静岡県で、浜松のPCガーベラやJAハイナン（榛原郡南）のハイナンガーベラが有名です。いずれの産地も、およそ三百品種のガーベラを栽培しています。

ガーベラはイチゴくらいの大きさ、ミカンくらいの大きさ、リンゴくらいの大きさ（大輪）の三種類のサイズがあり、大輪や最新品種を除いては比較的安価な花です。咲き方も一重咲きや八重咲き、ポンポン咲きやフリル咲きなど様々で、「これもガーベラなの!？」と思うほど目を惹くようなものもあります。

お部屋に飾る時は水の量を少なめにし、水に浸かっていた茎が柔らかくなるたびにカットしていくと、長く楽しむことができます。（花屋 秋葉山 店主しるす）

編集後記



ハワイで好きな詠讚歌ができる。誰もがよろこびそうなお話ですが、語学力や海外経験も乏しく、師範としても和尚としても人間としても、すべてが未熟な等身大の自分を思うと、このご縁はご辞退したほうがよいと考えていました。ところが、「よい勉強になるからぜひ行っていらっしやい」と背中を押してくださる先生のおかげで、心を決めることができました。

講習の雰囲気や求められることなど、わからないことばかりで、未知の世界への不安は、募るばかりでしたが、ハワイのみなさんは、親切であたたかい、笑顔がすてきな方がたでした。そして、それぞれの念いを深くして熱心に詠讚歌に向き合われるお姿は、日本の講員様と何ひとつ変わりませんでした。「梅花のこころ」は万国共通ということに改めて気づきました。「たのしくお唱えができれば、それでよし。細かいことは気にしない」ということではなく、正しい詠唱と作法を学びたいという真剣なお気持ちも感じました。貴重な経験と学びの数々に感謝の気持ちでいっぱいです。背中を押してくださった先生のお言葉の通り、ほんとうによい勉強になりました。

おかげさまで、とくに疲労の色もなく、たくさんの貴重な経験とともに帰国することができました。食べものも、言葉も、生活習慣も、すべてが異なる外国で、不安と緊張感いっぱい毎日過ごし、くたびれた様子で帰ってくるだろうと思っていた家族は、予想外の様子にひそかに驚いているようです。しかしながら、等身大の自分を考えると……という心配はその通りで、未熟でおぼつかず、十分なことをお伝えできなかったことを大反省しています。これからは、反省すべきは真摯に反省し、この貴重な経験を励みとして、詠讚歌も仏道も志を深くして向き合っていきたいと思えます。そして、アロハの国への再訪と再会の機会を念じています。季節の変わり目、どうぞ、ご自愛くださいませ。